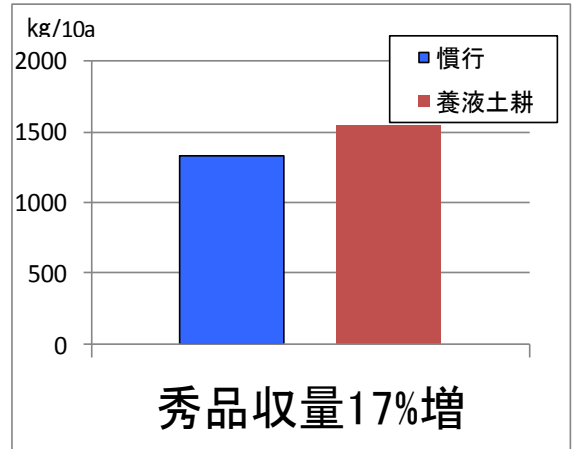
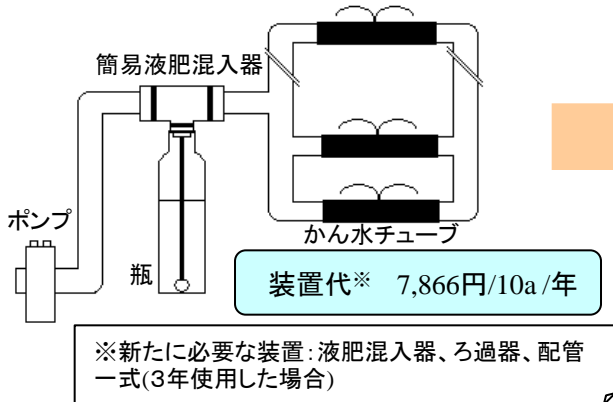


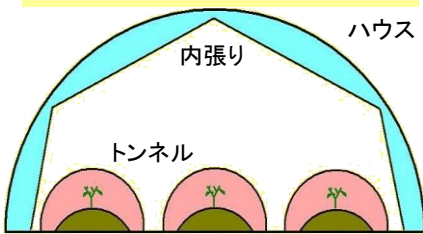
万願寺トウガラシの秀品増収・ ピーク分散技術が確立 (農林センター 園芸部)

養液土耕により秀品収量が17%増加しました。
また、多層被覆、切り戻し技術等の組み合わせにより、出荷期間4月上旬～12月中旬(従来4月下旬～11月中旬)が実現しました。

簡易で安価な養液土耕装置



無加温多層被覆

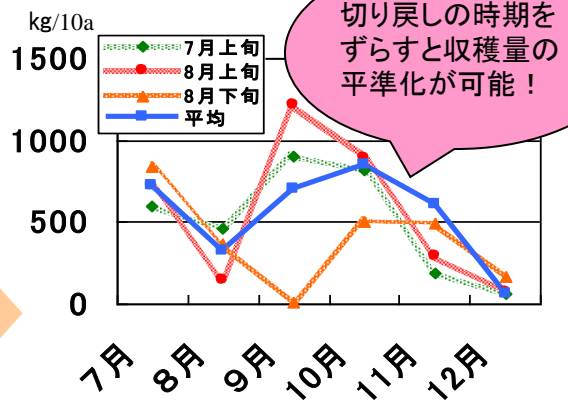


3重被覆、2月末定植

切り戻し技術

切り戻し時期、方法を組み合わせ、収穫ピークの分散を図る

作期拡大(2週間前進、
1ヶ月延長)と増収



切り戻しの時期をずらすと収穫量の平準化が可能!

図 切り戻し時期と秀品収量

養液土耕とすることで慣行栽培と同じ窒素施肥量で増収。2月末定植と無加温多層被覆により作期拡大、切り戻し技術により収穫ピークの分散が可能。

- ・養液土耕と作期拡大によりブランド品(秀品)を中心に増収し、粗収益約60万円/10a増が見込めます。
- ・切り戻し後、日平均気温11℃以上を超える部分を積算して、約600℃・日で収穫が再開できる日と予想され、計画生産ができます。
- ・これらの技術は、新品種「京都万願寺2号」、台木「台パワー」の組み合わせで効果が高まります。
- ・多層被覆は、中丹地域平坦部で可能ですが、気温に応じ被覆の開閉等の細かな管理が必要です。